

河川事業

再評価原案準備書

- 1 天塩川総合水系環境整備事業
- 2 網走川総合水系環境整備事業

事業名 (箇所名)	天塩川総合水系環境整備事業				担当課 担当課長名		水管理・国土保全局河川環境課		事業 主体	北海道開発局				
実施箇所	北海道名寄市、士別市、和寒町、剣淵町、下川町、美深町、音威子府村、中川町、天塩町、稚内市、豊富町、幌延町								評価 年度	令和6年度				
該当基準	社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業													
主な事業 の諸元	【天塩地区かわまちづくり】 ・高水敷整正、管理用通路等 【名寄川地区かわまちづくり】 ・管理用通路、横断施設 【天塩川中上流地区自然再生】 ・魚道整備、河道整正等 【天塩川下流地区自然再生】 ・河道掘削、覆砂等													
事業期間	事業採択		平成20年度		完了		令和14年度							
総事業費 (億円)	約41				残事業費(億円)				約6					
目的・必要性	＜解決すべき課題・背景＞ 【天塩地区かわまちづくり】 ・天塩町では、利尻・礼文観光の際の通り道になっているという立地条件から、「道の駅てしお」に年間約37万人もの来客があるが、観光動線が限られ、情報発信が不足しているため、他の町内観光施設を利用している割合は多くない。 ・天塩川河川公園などから望む日本海及び利尻富士の景観や、天然記念物であるオジロワシ、オオヒシクイなど、地域を代表する天塩川の自然が地域の観光資源となっているものの、町内の拠点から川へのアクセス情報の不足等から、普段の利活用は、あまりなされていない。 【名寄川地区かわまちづくり】 ・名寄市は、市内中心部を中心とするレンタサイクルシステムを導入して、環境負荷の軽減を図るまちづくりを目指している。 ・下川町では、安全・安心、快適に下川市街地区を回遊できる道路の整備を目指しており、両市町ともに市内での低炭素まちづくりに向けた政策を実施している。 ・しかしながら、下川町は、天塩川上流域で唯一鉄道が通っており、公共交通機関によるアクセスは、バスのみとなっている。 ・また、下川町に建設されたサンルダムは、新たな観光資源として活用することも期待されているが、観光地へのアクセス方法が課題となっている。 【天塩川中上流地区自然再生】 ・天塩川は、瀬と淵が形成され、本支川には魚類が遡上し、広く自然産卵が行われている。 ・遡上した魚類の死骸をオジロワシが捕食するなど、河川を軸とした食物連鎖(生態系ピラミッド)が形成されている。 ・また、世界的に減少に伴い、好適な汽水環境が更に減少するなど、河川環境が変化している。 ・魚類は、天塩川流域の広い範囲で生息が確認されているが、支川合流点等において河床低下による落差が生じ、遡上が妨げられている箇所がある。 【天塩川下流地区自然再生】 ・天塩川下流域では、捷水路工事等による河道の直線化及び浚渫により河岸が急傾斜化し、汽水域においても多様な河岸が減少した。さらに、近年では、流況の変化に伴い、好適な汽水環境が更に減少するなど、河川環境が変化している。 ・天塩川下流域においては、生態系の基盤となる物理環境が損なわれており、それに伴って汽水性底生生物の生息環境が減少している状況にある。 ＜達成すべき目標＞ 【天塩地区かわまちづくり】 ・本計画では、国が高水敷の整正、管理用通路、町が看板、フットパス、階段等の整備を行う。それにより、情報発信及び観光動線を強化し、「道の駅てしお」など観光拠点と天塩川の観光資源との連携を図り、遺跡・資料館などの歴史資源、天塩川・日本海の雄大な景色及び自然環境を活かした観光振興につなげ、地域を活性化させることを目標とする。 【名寄川地区かわまちづくり】 ・名寄市及び下川町のまちづくり計画と連携し、名寄川及びサンルダムの空間をサイクリング、散策等に活用できるよう整備し、観光拠点間の移動がしやすくなることによる地域活性化、観光振興、低炭素まちづくり等の促進を図る。 【天塩川中上流地区自然再生】 ・支川合流部等の落差解消による河川縦断方向の連続性(遡上環境)の回復、遡上先の魚類の産卵環境の回復により、魚類が持続的に再生可能な河川環境の回復を目標とする。 【天塩川下流地区自然再生】 ・緩傾斜で底質が砂質である好適な汽水域の環境・流速の緩やかな静水環境を再生することにより、天塩川下流汽水域がかつて有していた、オジロワシが飛来越冬する環境の回復を目標とする。 ＜政策体系上の位置付け＞ ・政策目標：良好な生活環境・自然環境の形成、バリアフリー社会の実現 ・施策目標：良好な水環境・水辺空間の形成、水と緑のネットワークの形成、適正な濁水処理の確保、下水道資源の循環を確保する													
便益の主な根拠	【天塩地区かわまちづくり】CVMにより算出(令和3年度) 支払意思額：418円/世帯/月(住民)、受益世帯数：23,559世帯(住民：令和3年1月) 支払意思額：559円/人/日(観光客：日帰り)、受益者数：125,558人(観光客：日帰り、平成27年～令和元年平均) 支払意思額：427円/人/日(観光客：宿泊)、受益者数：9,238人(観光客：宿泊、平成27年～令和元年平均) 【名寄川地区かわまちづくり】CVMにより算出(令和6年度) 支払意思額：338円/世帯/月(住民)、受益世帯数：15,607世帯(住民：令和6年1月) 支払意思額：479円/人/日(観光客：日帰り)、受益者数：73,386人(観光客：日帰り、令和元年度～令和5年度平均) 【天塩川中上流地区自然再生】CVMにより算出(令和6年度) 支払意思額：509円/世帯/月、受益世帯数：29,092世帯(令和6年1月) 【天塩川下流地区自然再生】CVMにより算出(令和6年度) 支払意思額：592円/世帯/月、受益世帯数：22,895世帯(令和6年1月)													
事業全体の投資効率性※	基準年度		令和6年度											
	B:総便益(億円)		138		C:総費用(億円)		58		全体B/C (社会的割引率1% 社会的割引率2%)	2.4 (4.5) (3.5)	B-C	81	EIRR (%)	19.8
残事業の投資効率性※	B:総便益(億円)		22		C:総費用(億円)		5		継続B/C	4.0				
感度分析※			残事業(B/C)		全体事業(B/C)									
	残事業費(+10%～-10%)		3.7 ～ 4.5		2.4 ～ 2.4									
	残工期(+10%～-10%)		4.0 ～ 4.0		2.4 ～ 2.4									
	資産(-10%～+10%)		3.6 ～ 4.4		2.2 ～ 2.6									

事業の効果等	【天塩地区かわまちづくり】 ・本計画では、国が高水敷整正、管理用通路等、町が看板、フットパス、階段等の整備を行う。それにより、情報発信及び観光動線を強化し、「道の駅てしお」など観光拠点と天塩川の観光資源との連携を図り、遺跡・資料館などの歴史資源、天塩川・日本海の雄大な景色及び自然環境を活かした観光振興につなげ、地域を活性化させる。 【名寄川地区かわまちづくり】 ・名寄市と下川町をつなぐサイクリングコースの整備により、観光で訪れた方も安心してサイクリングを楽しむことを可能とする。また、ダム湖周辺を遊歩道として活用することで、新たな観光地となり得るダムへのアクセス向上、観光誘致が期待でき、両市町の地域活性化につながる事が期待できる。 【天塩川中上流地区自然再生】 ・支川合流部等の落差解消（魚道整備）による河川縦断方向の連続性、河道整正による砂礫河原（魚類産卵環境）が復元し、流域の広範囲で自然産卵が行われるようになり、天塩川水系において魚類が持続的に再生産可能な河川環境の復元が期待される。 【天塩川下流地区自然再生】 ・汽水環境を再生することにより、汽水性のシジミ等の底生生物の生息環境が向上し、それを採餌する魚類、鳥類などの生息環境が向上すること、オジロワシ、オオワシなどの生態系上位種の採餌環境の改善につながる。オジロワシは、留鳥もいることから、これらの個体にとっては通年で良好な採餌環境の創出につながる事が期待できる。
社会経済情勢等の変化	＜関連事業との整合＞ 【天塩地区かわまちづくり】 ・天塩町では、平成31年3月に「第7期天塩町総合振興計画」を策定し「みんなで創ろう 育てよう 明るく楽しく元気なまちを」をテーマに、町が有する地域資源の可能性を見出すとともに有効に活かし、総合的かつ計画的なまちづくりを推進している。 ・観光の振興についても、平成25年9月に設置した「天塩かわまちづくり検討会」において町民の意見を集め、「天塩町観光振興ビジョン」が平成27年1月に策定された。また、令和2年7月には「天塩町観光振興ビジョン」自己評価報告書が公表され、今後も関連機関・事業者・地域住民と連携・協働しながら継続的な取組みを進め、観光振興を図ることが明記された。 【名寄川地区かわまちづくり】 ・天塩川シーニックバイウェイ（和寒町、剣淵町、士別市、幌加内町、名寄市、下川町、美深町、音威子府村及び中川町の9市町村で『道北観光連盟』を組織）、きた北海道エコ・モビリティ推進事業（道北エリアが持つ自然を活かした受入環境を整備）、テッシン・オーベツ賑わい創出協議会（天塩川周辺地域が広域に連携して地域の魅力を発信することにより、交流人口の増加及び地域の振興を図ることを目的とした協議会）等と連携し、地域特性を活かしながら進めていく。 【天塩川中上流地区自然再生】 ・関係行政機関連絡会議（魚類等生息・遡上環境などの改善に向けた連携会議）、天塩川魚類生息環境保全に関する専門家会議（魚類等の移動の連続性確保及び生息環境の保全に向けた専門家会議）等を開催し、今後の取組や整備などに関して連携を図っていく。 【天塩川下流地区自然再生】 ・天塩町の特産品であるシジミ資源の改善のため、天塩町・北るもい漁業協同組合によるパンケ沼覆砂事業（河道の掘削により生じた細砂を提供）など、自然環境保全・再生に向けた取組が行われている。 ＜河川等の利用状況＞ 【天塩地区かわまちづくり】 ・天塩川河口部に整備された鏡沼海浜公園及び天塩川河川公園では、町を挙げて「天塩川しじみまつり」等が開催され、約8千人（令和6年度）が訪れている。 ・鏡沼海浜公園には、キャンプ場、バーベキューハウス、売店などがあり、町民や観光客等のアウトドアレジャースポットとして利用されている。 ・天塩川河川公園は、観光スポットや町民の健康づくりの場として、散策やジョギング・ウォーキング、川エクササイズなどに利用されている。 ・天塩川では、天塩川カヌーツーリング大会「ダウン・ザ・テッシン・オーベツ」（1992年～）が毎年開催されており、カヌーによる地域振興を目指した流域市町村の連携が盛んである。 【名寄川地区かわまちづくり】 ・名寄市街部の天塩川河川敷にパークゴルフ場、サッカー場、サイクリング園路等が整備され、市民の健康増進、憩いの場として利用されている。 天塩川全域を使って、天塩川カヌーツーリング大会「ダウン・ザ・テッシン・オーベツ」（1992年～）などの各種イベントが開催され、毎年多くの観光客で賑わっている。 【天塩川中上流地区自然再生】 ・天塩川流域はカヌーが盛んで、定期的に大会が開催されており、リバーガイドなども存在する。 【天塩川下流地区自然再生】 ・河口部旧川跡を利用した鏡沼海浜公園には、キャンプ場、バーベキューハウス、売店などがあり、町民や観光客等のアウトドアレジャースポットとして利用されている。 ・また、天塩川では、天塩川カヌーツーリング大会「ダウン・ザ・テッシン・オーベツ」（1992年～）が毎年開催されており、カヌーによる地域振興を目指した流域市町村の連携が盛んである。 ＜地域開発の状況＞ 【天塩地区かわまちづくり】 ・天塩町の人口は2,700人で、年々減少が続いていますが、観光入込客数は平成15年の道の駅オープンに加え、平成30年にはてしお温泉夕映のリニューアル、令和元年の道の駅てしお内のテナント開設等により、増加傾向にある。 【名寄川地区かわまちづくり】 ・名寄市及び下川町の人口は約2.8万人で減少傾向にあり、高齢化率は増加傾向にある。 【天塩川中上流地区自然再生】 ・天塩川中上流域の人口は約5.4万人であり、近年、緩やかな減少傾向となっている。 【天塩川下流地区自然再生】 ・天塩川下流域（天塩町・幌延町）の人口は約4,800人であり、世帯数とともに減少傾向となっている。 ＜地域の協力体制＞ 【天塩地区かわまちづくり】 ・地域住民やNPO等が河川管理者と連携しながら、河川清掃等の維持管理、環境教育などに取り組んでいる。 ・天塩かわまちづくり検討会委員を中心とした地域住民独自で天塩町フェスタの開催、野鳥観察、縄文体験、食品開発を計画・試行（試作）、地元高校の学習「総合的な探求の時間」でのフットパスの活用など、河川の利活用メニューの開発に取り組んでいる。 【名寄川地区かわまちづくり】 ・下川町では、サンルダムの新たに創出される湖及びその周辺区域を観光資源として活用を図るため、サンルダム周辺整備計画を策定している。 【天塩川中上流地区自然再生】 ・地元リバーガイド及びカヌー利用者の方とサケ産卵床創出に関する現地視察、カワヤツメ・カワシンジガイ生息場の情報共有や意見交換等を行っているほか、地域で活動するNPO法人と連携し、天塩川でサケ産卵状況の観察会などを開催している。川で活動する組織、地域住民等と勉強会及び意見交換を行い、よりよい計画を策定して整備を進められるように、継続して連携を図っていく。 【天塩川下流地区自然再生】 ・「天塩川治水促進期成会」などの流域市町村を主体とした地元期成会から治水安全度の早期向上や環境へ配慮した河川整備や、汽水域等の自然再生と環境保全が要望されている。 ・地域のNPO、河川管理者、住民などが連携しながら河川清掃等の維持管理、環境教育、モニタリング調査などに取り組んでいる。

主な事業の進捗状況	【天塩地区かわまちづくり】 ・事業進捗率：約95%（総事業費（直轄事業費）約4.5億円に対し、約4.3億円実施済み） 【名寄川地区かわまちづくり】 ・事業進捗率：約71%（総事業費（直轄事業費）約9.1億円に対し、約6.5億円実施済み） 【天塩川中上流地区自然再生】 ・事業進捗率：約73%（総事業費（直轄事業費）約7.2億円に対し、約5.2億円実施済み） 【天塩川下流地区自然再生】 ・事業進捗率：約96%（総事業費（直轄事業費）約21億円に対し、約20億円実施済み）
主な事業の進捗の見込み	【天塩地区かわまちづくり】 令和7年度完了（予定） ・フォローアップ等 【名寄川地区かわまちづくり】 令和14年度完了（予定） ・河川管理者：管理用通路、モニタリング等 ・名寄市・下川町：看板、遊歩道等 【天塩川中上流地区自然再生】 令和10年度完了（予定） ・河道整正、モニタリング等 【天塩川下流地区自然再生】 令和11年度完了（予定） ・モニタリング等
コスト縮減や代替案立案等の可能性	<コスト縮減> 【天塩地区かわまちづくり】 ・水辺整備においては、河川事業において発生した掘削土砂を管理用通路における盛土に流用し、全体事業費5,900万円のコスト縮減を図っている。 ・また、AIを活用する等、モニタリング手法の見直しを図り、コスト縮減に努めている。 【名寄川地区かわまちづくり】 ・水辺整備においては、アスファルト舗装発生材の有効利用やサイクルルートの見直しにより、全体事業費約530万円の縮減を図っている。 【天塩川中上流地区自然再生】 ・河道整正に伴う現地発生材の有効利用などについて検討を進め、コスト縮減に努めている。 【天塩川下流地区自然再生】 ・天塩川下流地区の汽水環境の再生による掘削土を築堤工事の盛土剤やパンケ沼の底質環境改善のための覆砂へ土砂供給することで、約240万円／年のコスト縮減を図っている。 <代替案立案の可能性> 【天塩地区かわまちづくり】 ・かわまちづくりの実施計画は、計画立案段階からNPO、地元住民、行政関係者などで構成する「天塩かわまちづくり検討会」において議論を重ねており、現計画が最適である。 【名寄川地区かわまちづくり】 ・かわまちづくりの実施計画は、名寄市、下川町、観光協会、地元サイクリングクラブ等と連携し、議論を重ねており、現計画が最適である。 【天塩川中上流地区自然再生】 ・自然再生事業の実施計画は、「天塩川水系河川整備計画」（平成19年策定）に基づき、学識経験者からなる「天塩川魚類生息環境保全に関する専門家会議」（平成19年度設立）による議論の結果、今後取り組むべき施策や方向性について取りまとめた「天塩川における魚類等の生息環境保全に関する中間取りまとめ」を踏まえ、「天塩川中上流地区自然再生計画書」が策定されており、現計画が最適である。 【天塩川下流地区自然再生】 ・自然再生事業の実施計画は、計画立案段階から河川環境に関する学識経験者、住民委員（NPO）、関係機関（役場、漁業関係者）が参加する天塩川下流汽水環境検討会において議論を重ねており、現計画が最適である。
対応方針	継続
対応方針理由	・事業の必要性・重要性に変化はなく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。
その他	<第三者委員会の意見・反映内容> <都道府県の意見・反映内容> 「天塩川総合水系環境整備事業」を「継続」とした「対応方針（原案）」について、異議はありません。 当該事業のうち、名寄川地区かわまちづくりについては、市町と連携して水辺整備を行うことにより、地域の活性化に寄与することなどから、地域の要望を踏まえ、地域と工程について十分調整を行いながら、早期完成を図るようお願いいたします。 なお、事業の実施にあたっては、徹底したコスト縮減を図り、これまで以上に効率的・効果的な執行に努めるようお願いいたします。

※費用対効果分析に係わる項目については、箇所によって評価時点が異なる。

事業名 (箇所名)	網走川総合水系環境整備事業			担当課 担当課長名	水管理・国土保全局河川環境課		事業 主体	北海道開発局			
実施箇所	北海道網走市、大空町、美幌町、津別町						評価 年度	令和6年度			
該当基準	再評価実施後一定期間(5年間)が経過している事業										
主な事業 の諸元	【網走かわまちづくり】 河川管理用道路(ボックスカルバート)、取付道路、モニタリング等 【網走湖水環境整備】 塩炭境界層制御施設、水草刈り取り、浚渫、河道内直接処理施設、植生利用浄化施設、モニタリング等										
事業期間	事業採択	平成5年度	完了	令和10年度							
総事業費 (億円)	約192		残事業費(億円)		約0.5						
目的・必要 性	<解決すべき課題・背景> 【網走かわまちづくり】 ・河川管理用道路は網走川を横架している橋の橋上で分断されていることから、動線の連続性の確保が課題となっている。 ・また、網走川沿いの一部区間では階段護岸が整備されているが、大きな段差があり、管理用道路等のバリアフリー化が必要となっている。 【網走湖水環境整備】 ・流域からの生活排水、農業・工場排水の流入や海から逆流した塩水層からの拡散などにより、富栄養化が進行することに伴い、昭和50年代後半からアオコが頻発するようになった。 ・また、塩炭境界層が上昇し塩炭境界水深が5m程度となった昭和62年に網走湖で初めて青潮が発生した。これを契機として網走湖は貴重な自然環境、親水空間、産業の場として欠かせない湖であるという認識のもと水環境改善に向け取り組みを開始した。 <達成すべき目標> 【網走かわまちづくり】 ・網走川を横架している橋の橋上で分断されている管理用道路の分断箇所を、ボックスカルバートにより連絡し、網走川河口から大曲湖畔園地に至る動線を確保することにより、安全な水辺へのアクセス向上を図る。 ・階段護岸の箇所に取付道路を整備し、高齢者や障害者等が安全に利用できるようバリアフリー化を行い、網走川沿いの親水性向上を図る。 ・国内外からの観光客が、見知らぬ土地でも安心して利用できるよう、周辺地図や主要な観光スポット、モデルコース等が記載された看板を設置する。海外からの観光客も想定し、外国語表記も取り入れる。また、夜間なども安全に利用できるよう街灯やボックスカルバート内の照明を設置する。 【網走湖水環境整備】 ・「第二期水環境改善緊急行動計画(清流ルネサンスⅡ)」を踏まえ、網走川大曲堰の運用等による河川・湖沼内での水質改善のための対策や流域における汚濁負荷削減に取り組むなど、関係機関と連携し、現況水質の改善に努める。 <政策体系上の位置付け> ・政策目標：良好な生活環境、自然環境の形成、バリアフリー社会の実現 ・施策目標：良好な水環境・水辺空間の形成・水と緑のネットワークの形成、適正な污水处理の確保、下水道資源の循環を推進する。										
便益の主な 根拠	【網走かわまちづくり】CVMにより算出(令和6年度) 支払意思額：542円/世帯/月(住民)、受益世帯数：105,838世帯(住民：令和6年1月) 支払意思額：434円/人/日(観光客：日帰り)、受益者数：232,352人(観光客：日帰り、令和元年度～令和5年度平均) 【網走湖水環境整備】 CVMにより算出(令和6年度) 支払意思額：637円/世帯/月(住民)、受益世帯数：297,158世帯(住民：令和6年1月) 支払意思額：364円/人/日(観光客：日帰り)、受益者数：888,108人(観光客：日帰り、令和元年度～令和5年度平均) 支払意思額：389円/人/日(観光客：宿泊)、受益者数：183,585人(観光客：宿泊、令和元年度～令和5年度平均)										
事業全体の 投資効率性※	基準年度		令和6年度								
	B:総便益 (億円)	759	C:総費用(億円)	531	全体B/C (社会的割引率1%) (社会的割引率2%)	1.4 (2.2) (1.8)	B-C	228	EIRR (%)	5.3	
残事業の 投資効率性※	B:総便益 (億円)	11	C:総費用(億円)	0.5	継続B/C	23.5					
感度分析 ※	残事業(B/C)		全体事業(B/C)								
	残事業費(+10%～-10%)	21.4	～	25.8	1.4	～	1.4				
	残工期(+10%～-10%)	—	～	—	—	～	—				
	資産(-10%～+10%)	20.9	～	25.5	1.3	～	1.5				
事業の効果 等	【網走かわまちづくり】 ・河川管理用道路(ボックスカルバート)、取付道路、案内看板、街灯、ボックスカルバート内照明等の整備により、網走川河口から大曲湖畔園地に至る動線が確保され、安全な水辺へのアクセス向上が図られるとともに、網走川沿いの親水性向上が図られる。 【網走湖水環境整備】 ・網走湖の水質の改善や青潮の発生の要因である塩炭境界水深の低下が図られ、アオコ、青潮の発生が抑制されるとともに、良好な水辺環境、網走湖の景観や快適な水辺利用環境の保全などの効果が期待される。										

社会経済情勢等の変化	<関連事業との整合> 【網走かわまちづくり】 ・「網走市総合計画（2018～2027）」に基づき、交通アクセスの円滑化による観光客の利便性向上や多様な関係者との連携による新たな観光地域づくり等を推進している。 ・「網走市都市計画マスタープラン」に基づき、網走川沿いのサイクリングロードについて、サイクリングやウォーキングをはじめとした日常的なレクリエーション空間としての積極的な活用を推進している。 ・「網走市観光振興計画 2019」において、網走の持つ豊かな地域資源や地域特性を活かした観光振興を目指し、網走かわまちづくりと連動した散策コースのPR等を推進している。 【網走湖水環境整備】 ・網走湖の水環境改善を目指して、有識者、国、北海道、流域市町等からなる網走湖環境保全対策推進協議会を設置し、網走川水系網走湖水環境改善緊急行動計画（清流ルネッサンスⅡ）を策定し、流域一体となって取り組みを推進している。 <河川等の利用状況> 【網走かわまちづくり】 ・網走川の河川敷は散策やサイクリングなどに利用されるなど市民の憩いの場となっている。さらに、川沿いには、オホーツク・文化交流センター、モヨロ貝塚館、みなと観光交流センターなど観光集客施設が立地するとともに、「あばしり道の駅大町まつり」等のイベントが開催されるなど多くの市民や観光客が訪れる観光交流の場となっている。 【網走湖水環境整備】 ・網走湖周辺にはキャンプ場などの観光・レクリエーション施設があり、流域住民や観光客に利用されている。 ・網走湖近傍には女満別空港があり、毎年、道内外から多くの観光客が訪れており、網走市及び大空町の年間観光入込客数は平成29年度に約280万人に達した。令和2～3年度は新型コロナウイルス感染者拡大の影響により一時的に減少したが、令和4年度以降は回復傾向にある。 <地域開発の状況> 【網走かわまちづくり】 ・網走市の人口は、約3.3万人（令和6年）で減少傾向にあり、少子高齢化の影響で65歳以上の高齢化率は増加傾向にある。 【網走湖水環境整備】 ・流域市町人口（網走市、大空町、美幌町、津別町）は約6.1万人（令和6年）で、65歳以上の高齢化率が増加している。 ・網走国定公園は、オホーツク海に面し網走市を中心にしてその両側に拡がっており、サロマ湖、網走湖、能取湖など大小7つの湖沼を有する面積約37千haの自然公園であり、農業・畜産業が盛んで、近年、農地開発が進んでおり、牛の飼養頭数についても昭和40年以降、大きく増加している。 ・網走川流域では主にヤマトシジミ、ワカサギ漁などの漁業が盛んで、これらの漁獲量は北海道内の約6～9割を占めている。しかし、平成16年3月にヤマトシジミが絶死しているのが確認され、平成16年から17年にかけてヤマトシジミ資源量が大きく減少した。平成26年以降、資源量は回復したが、平成30年から資源量は減少に転じた。令和4年の資源量は大きく増加している。現在、網走湖汽水環境保全方策検討委員会において、増減要因や対策を検討している。 <地域の協力体制> 【網走かわまちづくり】 ・網走市では、網走市、NPO、地元住民、網走開発建設部等で構成する意見交換会の場として「網走かわまちづくり検討会」を設置し、かわとまちが一体となった観光振興や親水空間創出の具体化を図る「網走かわまちづくり」計画を策定している。この計画は、「かわまちづくり支援制度」を活用した「網走かわまちづくり」として国土交通省に申請し平成28年3月28日に登録された。 【網走湖水環境整備】 ・流域市町村を主体とした「オホーツク圏活性化期成会」から、環境整備事業の推進が要望されている。 ・観光協会、漁業団体等が主催する各種の河川清掃・湖岸清掃が継続して実施され、毎年多数の住民が参加している。 ・網走川周辺では、自然景観や歴史的資源をめぐり文化・産業・観光から網走の魅力や価値を再発見・再確認する「あばしり学」講座や川の環境学習が行われており、多数の市民が参加している。
主な事業の進捗状況	【網走かわまちづくり】 ・事業進捗率：約92％（総事業費（直轄事業費）約6.4億円に対し、約5.8億円実施済み） 【網走湖水環境整備】 ・平成29年度事業完了
主な事業の進捗の見込み	【網走かわまちづくり】 令和10年度完了（予定） ・モニタリング等
コスト縮減や代替案立案等の可能性	<コスト縮減> 【網走かわまちづくり】 ・近接構造物への影響が最小となるボックスカルバートの位置設定や施工に係る新技術の活用による工事期間の短縮などにより、全体事業費約13.5百万円のコスト縮減を図っている。 <代替案立案の可能性> 【網走かわまちづくり】 ・網走かわまちづくりは、計画立案段階から、網走市役所、NPO、地元住民、網走開発建設部等で構成する「網走かわまちづくり検討会」で議論を重ねており、また、ハード整備が既に完了していることから、現計画が最適である。
対応方針	継続
対応方針理由	・事業の必要性・重要性に変化はなく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。
その他	<第三者委員会の意見・反映内容> <都道府県の意見・反映内容> 「網走川総合水系環境整備事業」を「継続」とした「対応方針（原案）」について、異議はありません。 当該事業のうち、網走かわまちづくりについては、市と連携して水辺整備を行うことにより、地域の活性化に寄与することなどから、モニタリングの結果を踏まえ、地域と十分連携し、利活用の促進に向け、取り組みを進めるようお願いいたします。 なお、事業の実施にあたっては、徹底したコスト縮減を図り、これまで以上に効率的・効果的な執行に努めるようお願いいたします。

※費用対効果分析に係わる項目については、箇所によって評価時点が異なる。